

摩周湖における環境保全のための代替輸送システム構築の可能性に関する調査・研究

－ハイブリッドバスによる輸送実験を事例として－

【目次】

序章 目的と手法	第4章 ハイブリッドバスによる代替輸送システム構築の可能性
第1章 摩周湖の概要と現状	第1節 摩周湖の観光の問題点
第1節 摩周湖の歴史及び概要	第2節 摩周湖環境保全対策の今後について
第2節 摩周湖における観光について	終章
第3節 摩周湖の透明度低下の現状	第1節 追加アンケートの実施
第2章 自然保全の必要性	第2節 各章の結論をふまえて
第1節 環境問題とは	第3節 まとめ
第2節 自然保全の必要性	参考文献
第3節 摩周湖の保全対策の必要性和現状	図表索引
第3章 代替輸送実験の実施	謝辞
第1節 ハイブリッドバスについて	
第2節 弟子屈町における代替輸送実験の概要	
第3節 弟子屈町における代替輸送実験に関するアンケートに対する考察	

【目的】

かつて世界一の透明度を誇った摩周湖の透明度低下が近年大きな問題として注目されている。しかし、弟子屈町は摩周湖の透明度自体は、他の湖に比べ、透明度がまだ高いため、危機的な状況ではないと現在は考えており、最低限今のままの摩周湖を維持して、世界的にも貴重な自然環境をきれいなまま次世代に残していこうと考えている。

透明度の低下にはさまざまな原因が推測されるが、その一つに自動車の排気ガスがある。そこで、摩周湖保全の対策として排気ガスから摩周湖を守るため、摩周湖展望台に通じる道道屈斜路摩周湖畔線のマイカー規制実験が行われた。この摩周湖保全におけるハイブリッドバスによる代替輸送実験は代替輸送システム構築のための第一歩であり、本論文では代替輸送システムによる摩周湖保全の可能性について考えた。

【方法】

第一に文献や各種資料を基に、摩周湖における環境問題の現状を明らかにした。第二に、実地調査及び関係資料・参考文献を基に環境保全のための代替輸送システムの意義と限界を明らかにした。第三に、弟子屈町と釧路公立大学のアンケートを分析し、それに加え、補完調査として独自のアンケート調査を実施した。以上を踏まえ、摩周湖における環境保全のための代替輸送システムの構築の可能性について明らかにした。

【結論】

アンケート分析から、今回のマイカー規制実験は、多くの観光客から認められていることがわかった。観光客もきれいなままの摩周湖であり続けることを望んでいる。弟子屈町は、代替輸送の手段としてハイブリッドバスを考えており、マイカー規制が本格実施されると、理想としては15台～20台のバスが必要になることを想定している。ただし、弟子屈町の財政面から考えると、ハイブリッドバスを必要台数用意するのは難しいと思われる。もちろん、マイカー規制全てがハイブリッドバスで運行されることが望ましいが、マイカーを規制して摩周湖へ向かう車の台数が減るだけでも効果はあるはずで、予算を考えて1年に1台や2台ずつ増やしていくなど、徐々に台数を増やしていくことが必要である。さらに、その他の環境負荷の少ない代替輸送手段を考えコストを抑えながら、環境保全できるように考えていかなければならない。マイカー規制が本格的に実施されると、自由に摩周湖に行けなくなり、不便に感じることもあろうが、摩周湖の環境保全を考え、マイカー規制を行い、素晴らしい自然を後世にも残していかなければならない。

【参考文献】

- 植田和弘著 『環境経済学への招待』 丸善株式会社 1998年
植田和弘・落合仁司・北畠能房・寺西俊一著 『環境経済学』 有斐閣 2002年
国立環境研究地球環境研究センター著 『摩周湖モニタリングデータブック』 国立環境研究所 2004年